

国立公園とその周辺地域における保護と利用の課題
-地域の生活と連携した新たな展開の可能性に向けて-

加藤峰夫（横浜国立大学 経済学部）

1. 国立公園とは何か -国立公園の誕生から現在まで-

- “National Park”— アメリカで誕生、新大陸諸国で発展
- 自然と文化（歴史）の保護と、国民全体による公園としての利用。
- 国立公園（National Park）から世界遺産（World Heritage）へ。
- 日本の国立公園制度の特徴と問題点。

地域制公園、地元の協力と既存の観光基盤を前提、環境省 vs. 林野庁、乏しい公園管理予算と人員（レンジャー）、生態系保護の観点の弱さ、等々。

2. 国立公園の価値とは何か

- アウトドア・レクリエーションの機会の提供。
- 自然と文化（歴史）の生きた教室。
- 水源の涵養、国土保全、地域的な気候の安定化。
- 生態系の多様性の保全
- 地球規模の環境変化に対する防波堤
- 地域経済への貢献。

3. 演として自然を「保護」し「利用」することの困難

- 国立公園の新設・拡大と他の産業活動の対立。
- 国立公園の価値の認識不足 → 貧弱な管理体制（予算、人員、知識）
- 迫り来る開発の波：国立公園の周囲の開発からの影響。
- 『過剰利用（Over Use）』（愛するあまり殺してしまう）。踏みつけによる土壌崩壊、ゴミと屎尿処理、車による渋滞と利用者による混雑、生態系（動植物）の変化、等々。

4. 適切な保護と利用のための対策

- 管理の2つのポイント：「生態系保全」と「良好な自然体験の確保」。
- さらに重要となる「管理活動」。
- 「利用をコントロールする」とはどういうことか？
- コストの分担も重要な課題。

適切な管理が国立公園の価値を高める。

5. 国立公園発展の鍵となるのは地域社会との連携

- 地域社会にとっての利益
- 地域社会にとっての不利益

- 地域社会に期待される理解と協力。
- 国に求められる適切な対応と制度整備。